

昭和的空間が、当時の人々に与えた効果について

一昭和30～40年代の街並みを対象とした、パタンランゲージの適用による分析一

宇野研究室

4104031 黒田 桃

1. 研究の背景

今日、昭和30～40年代を舞台とした映画や小説、当時の街並みを体験させるアミューズメントパークなどが人気をはくしている(表1)。「人情に溢れていた昭和」「暖かく涙と笑いに溢れていた昭和」…昭和という時代につく代名詞は様々であるが、世代を問わず多くの人達が「古き、良き時代、昭和」に惹きつけられている。そこには、人間の生活が色濃く写し出され、描かれているのである。今日における街づくりの多くは、経済効果優先の乱開発が目立ち、良い街づくりを期待できるものではない。そんななか、幅広い世代から注目を集めている昭和30～40年代を対象とし、分析することは意義があることと考え研究を始めた。

2. 研究の目的

昭和30～40年代に於いての空間もしくはその構成要素の分析、ならびにそれらの要素がどのように機能していたのかを本研究ではパタン・ランゲージという「人間的な親しみやすい環境を形づくる」ことを目指した新しい街づくりの理論を通して考察する。そして、ヒューマンスケールで構成される街づくりの新たな要素の発見とともに、今日にもつなげられる手法を模索することを目的とする。

3. 研究の方法

3-1 資料収集

- 昭和30～40年代の写真および映像の収集
- 昭和30～40年代に関する文献の読み解き

3-2 現地調査

- 昭和30～40年代の趣が今でも残る街の現状調査(町屋駅、南千住駅周辺)

3-3 パタン・ランゲージの利用

3-4 アンケート調査

4. 研究の内容および考察

4-1 パタン・ランゲージ概要および適用の背景

Christopher Alexander 「A Pattern Language」^{註1)}

パタン・ランゲージは、環境デザインのための共通言語であり、また過去の様々な論文^{註2)}においても、この理論は風土や文化も違う日本の中でも適応可能であると考察がなされてきている。よって、本研究においてもこの理論を通して研究を進めていく。

4-2 パタンの選択ならびにアンケート調査

まず、Alexander のパタン・ランゲージをもととし様々な文献を参考に、昭和っぽさには欠かせないであろうパタンを暫定的に30個抽出しアンケート調査を行った。

・アンケートの概要

目的: 同じ世代の人達を対象としたアンケート調査を実施することにより、郷愁(ノスタルジア)ではない昭和30～40年代のイメージを把握、発見することを目的とする。

対象: 都市や街、建物に興味のある建築学生15人。

内容: 暫定的に抽出した30個の個々のパタンそれぞれに、以下の3項目に答えてもらった。①昭和っぽさ。(4段階)②今もあるか否か。③魅力的か否か。またアンケートとともに聞き取り調査も行った。

・アンケートの結果(表2)および考察

30個中27個のパタンが昭和っぽいという結果になった。またその中で、とても「魅力的」だと思われるパタンが18個あった。この18個は、聞き取り調査の結果から地域との触れ合い隣人との接触などコミュニケーションのきっかけとなるようなパタンであり、昭和30～40年代のイメージとしての「昭和っぽさ」にはコミュニケーションの豊かさが重要なキーワードであることが解かった。また、このパタン18個のうちの12個が「今もある」という結果となり、この12個のパタンの殆どが、今もあるけど使われていない、使われ方が違うといった意見が多くあがった。よって魅力的なパタンは今でも存在はしているけれど、上手く機能していないことが解かる。次にこのアンケート調査の結果を踏まえ、再度個々のパタンについて追加および訂正などを行い最終的に昭和的空間像の固有の43個のパタンを作成した(表3)。またこれらのパタン43個を「街並み」「建物」「アイテム」の3グループに分類した。これにより、昭和30～40年代のようなヒューマンスケールで出来た街に於いては、パタン・ランゲージの理論を通して街の個々の現象をパタンに置き換えることが可能であることが解かった。

アンケート結果 表2▼				
	昭和っぽい	魅力的	今もある	
	●	●	●	魅力的なパタン 聞き取り調査内容
no.001 街路を下ろすテラス	●	●	●	no.001 街路を見下ろすテラス ・今も途中で使われるけど、ここでの触れ合いはない。この触れ合いが昭和っぽく魅力的。 ・地域との触れ合いがこういう場所から生まれている。
no.002 産れるところ	●	●	●	no.002 産れるところ ・産むところには産婦の人が暮らしているイメージがある。今は、日常生活にはあまりない。 ・産むには産む。産んでから産婦を助産がある。
no.003 さわれる花	●	●	●	no.003 さわれる花 ・老人が家の前で、自由に鉢植えを置いて育てている。花があるのは今も何も変わらない。でも、花の匂いには、心が豊かになる。育てている生活感がいい。
no.004 歩行路の形	●	●	●	no.004 歩行路の形 ・今は、窓枠があるけど入れない。 ・整備されている公園はないけど、こういう方が子供たちが生き生き遊んでいたイメージがある。
no.005 あき地	●	●	●	no.005 あき地 ・公園やスポーツ場のあき地に近づいている。 ・地域のつながりが生まれているのではないかと、とても重要な要素だと思う。
no.006 街路にむかう窓	●	●	●	no.006 街路にむかう窓 ・今だと人工的な水が多い。 ・自然の水が湧いて、そこに緑がある感じがとても魅力的だ。
no.007 壁面後退なし	●	●	●	no.007 壁面後退なし ・こういう壁の造りやスペースが積極的に使われていたイメージ。 ・住民同士が仲良くできるきっかけになっていたのではないかと。
no.008 緑路・土路	●	●	●	no.008 緑路・土路 ・どこにもあつていないけど、あるところにある。 ・状況の人が静か。緑に強いつながりを感じていたのではないかと。
no.009 自然の水	●	●	●	no.009 自然の水 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.010 抜ける道	●	●	●	no.010 抜ける道 ・外で遊んでいるイメージ。 ・緑地にあふれているけど、今はあまりない。
no.011 静かな奥	●	●	●	no.011 静かな奥 ・老人が静かに暮らしている。花があるのは今も何も変わらない。 ・静かなところは、心が豊かになる。育てている生活感がいい。
no.012 小さな人だまり	●	●	●	no.012 小さな人だまり ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.013 角の八百屋	●	●	●	no.013 角の八百屋 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.014 どこでもこども	●	●	●	no.014 どこでもこども ・外で遊んでいるイメージ。 ・緑地にあふれているけど、今はあまりない。
no.015 どこにでも老人	●	●	●	no.015 どこにでも老人 ・老人が静かに暮らしている。花があるのは今も何も変わらない。 ・静かなところは、心が豊かになる。育てている生活感がいい。
no.016 職住一体化	●	●	●	no.016 職住一体化 ・老人が静かに暮らしている。花があるのは今も何も変わらない。 ・静かなところは、心が豊かになる。育てている生活感がいい。
no.017 手近な緑	●	●	●	no.017 手近な緑 ・老人が静かに暮らしている。花があるのは今も何も変わらない。 ・静かなところは、心が豊かになる。育てている生活感がいい。
no.018 百貨店	●	●	●	no.018 百貨店 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.019 商店網	●	●	●	no.019 商店網 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.020 小さな人だまり	●	●	●	no.020 小さな人だまり ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.021 歩行路と目標	●	●	●	no.021 歩行路と目標 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.022 街路への開口	●	●	●	no.022 街路への開口 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.023 壁面後退なし	●	●	●	no.023 壁面後退なし ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.024 歩行者密度	●	●	●	no.024 歩行者密度 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.025 世帯の混合	●	●	●	no.025 世帯の混合 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.026 中心部の共域	●	●	●	no.026 中心部の共域 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.027 静かな奥	●	●	●	no.027 静かな奥 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.028 細い道	●	●	●	no.028 細い道 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.029 緑路・土路	●	●	●	no.029 緑路・土路 ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。
no.030 建物の大きさ	●	●	●	no.030 建物の大きさ ・今もあるが、昭和っぽい感じはしない。 ・でも、自然の水が湧き出す感じが、寂しいところには魅力的。

時代背景・昭和ブームの主な出来事 表1▼

	1940	1950	1960	1970	1980	1990	1995	2000	2005	2007	2010
時代背景	太平洋戦争	第二次世界大戦	戦後復興期	高度経済成長	東京オリンピック	「A Pattern Language」	「ALWAYS 続三丁目の夕日」(2008)	「歌姫」(TBS系ドラマ 2007)	「週刊 昭和タイムズ」(DeAGOSTINI 2007)		
昭和ブームの火付け役となった主な出来事						「ALWAYS 三丁目の夕日」(2005)	「東宝タワー オカンとボクと、時々、オトン」(2005)	「てくてる家族」(NHK 連続ドラマ 2003)	お台場一丁目商店街 (2002)	新横浜ラーメン博物館 (1994)	

4-3 パタンシートの作成

パタン・ランゲージによるパタンを参考にし、4-2で確定した43個のパタンについてのシートを作成した(図1)。このパタンシートにはパタンno、パタンの名称、パタンのイラストまたは写真、パタンの効果^{註3)}、関連のあるパタンを入れた。これにより、個々のパタンは視覚的に分かり易く示され、関連のあるパタン同士を容易にリンクさせることが出来る。

4-4 カスケイドの作成

4-3で作成したパタン・シートをもとに、個々のパタンのつながりから昭和30～40年代の全体像を示すカスケード^{註4)}を作成した(図2)。これにより、個々のパタンが全体像の中でどの位置にあり、他のパタンとどのようなつながりを持ちながら機能しているかを知ることが出来た。また、個々のパタン同士のつながりによって生れ得る人々への効果についても検討することが出来た。また、このカスケードはセミラティス構造^{註5)}になっており、上位パタンから下位パタンまで流れるようなつながりを示し、きめの細かい多様性に豊かなヒューマンスケールの街であったと言える。

4-5 調査事例

東京都心で今でも昭和の面影が残る町屋駅、南千住駅周辺の現況調査を行った。現況写真(図3-1)をもとに具体的に細かく見ていくと、主に10個の要素(パタン)から成っており、これらの要素(パタン)は緩やかなつながりをもって構成されていることが解かる(図3-2)。例えば、「歩行者街路」という要素に面して、次の要素である「街路を見下ろすテラス」や「街路に向かう窓」があり、またそこに「手近な緑」や「さわれる花」が絡まってくることにより、街路における営みや、街路の人との関係が生まれやすい雰囲気になっているのではないかと考えられる。

5. まとめ

本研究により、街の構造を知る手段の1つとしてパタン・ランゲージの利用が有効であることが解かった。昭和30～40年代という時代が形づくる要素(パタン)を新しい視点から発見、把握することが出来たと同時に個々の要素が街の中でどのようなつながりを持ち機能しているかを知ることが出来た。また、昭和30～40年代の街並みには多くの要素が存在し、それらの小さな要素が自然に作用し合い、様々な人情味のある行動が生まれ生活の営みが色濃くにじみでた人間に親しみやすい街が形成されていたのではないかと考えられる。そこには、相互依存性が強く表れていることが重要で、映像や雰囲気でした昭和30～40年代という時代を知らない世代による新しい見方があり、ノスタルジックな感傷からみえる魅了ではない違った魅力が確実に存在することが解かった。今後街づくりをする際、1軒の家を建てる際にでもその計画が作成した全体像の中で、個々の要素がどのような位置にあり他の要素とのどのようなつながりを持つことになるのかを把握することは、とても人間に近いヒューマンスケールな街づくり、建物を計画する際の参考になるのではないと思う。

脚注: 1) Christopher Alexander 「A Pattern Language」1984 鹿島出版会 アメリカの建築家でもあり都市計画家である Christopher Alexander が1977年に考案された。内容としては、建築に於いて繰り返し登場するパタン(要素)をある定まったフォーマットで記述。個々のパタンはお互いに関連、連携し合い1つの大きなゆるやかな体系をなしている。パタンは3つのカテゴリ「町」「建物」「施工」に分かれており、計253個のパタンが記されている。2) (参考論文) 西田徹・沖塩荘一郎・渡邊寛「ヒューマンスケールに関する基礎研究ーパタン・ランゲージによる神楽坂像を通してー」(1990/10)、奥田宗幸・辰野智子「パタン・ランゲージの日本住宅への適応性に関する研究」(1985/10) 3) ここで述べているパタンの効果は、そのパタンが人に及ぼす効果についてを示している。4) カスケード(Cascade)の原義は、もともと連なった小さな滝のことであり、さらにその派生として連続したものの、数珠つなぎになったものを意味する言葉として用いている。5) セミラティス構造(Semi-Lattice)、「ツリー」「ラティス」「セミラティス」の3タイプある。「ツリー」は一本の幹から枝が分かれているような樹木状の構造であり、要素から要素への経路は1つしかなく単純な関係性を示す。「ラティス」は網の目状の構造であり、要素から要素への経路が複数あり要素間の関係は複数多岐である。「セミラティス」はこれらの特徴を併せ持つ、自由度が高く多様で生命力溢れる都市構造のことを示している。参考文献: 1) Dimitri Boria/GHQカメラマンが撮った「戦後のニッポン」ーカラーで蘇る敗戦から復興への記録」2007 アークアイブス出版 2) 増田義和「東京懐かし昭和30年代」2005 プループガイド編集部 3) 富岡哇草「東京消えた街角」1992 玄同社 4) 石井賢「写真集 東京ー都市の変貌の物語1948ー2000」2001 KKベストセラーズ 5) 藤森照信 初田亨 藤岡洋保「写真集 幻の東京ー大正・昭和の街と住まい」1998 柏書房 6) 樋口忠男「昭和イメージ劇場ー樋口忠男遺作集」1993 樋口よしえ 6) 臼井薫「戦後を生きた子供たち」1988 臼井薫写真の店 7) 木村伊兵衛 木村伊兵衛写真真全集昭和時代ー第3巻 昭和30年～49年」1984 筑摩書房 8) 田村茂「わがカメラの戦後史」1982 新日本出版社

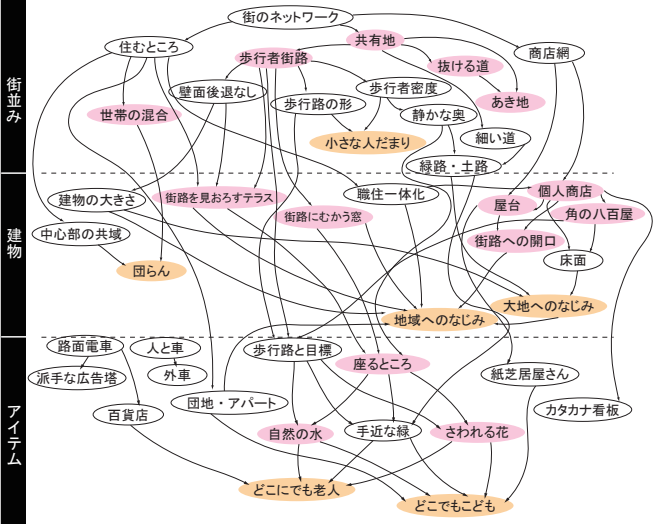
▼表3 昭和的空間像の固有のパタン(個数)

街並み	建物	アイテム
001 街のネットワーク	016 建物の大きさ	029 路面電車
002 住むところ	017 街路を見おろすテラス	030 人と車
003 歩行者街路	018 街路にむかう窓	031 団地・アパート
004 共有地	019 職住一体化	032 歩行路と目標
005 商店網	020 個人商店	033 座るところ
006 壁面後退なし	021 屋台	034 紙芝居屋さん
007 歩行路の形	022 中心部の共域	035 カタカナ看板
008 歩行者密度	023 角の八百屋	036 派手な広告塔
009 抜ける道	024 団らん	037 百貨店
010 あき地	025 街路への開口	038 外車
011 世帯の混合	026 床面	039 水
012 小さな人だまり	027 大地へのなじみ	040 手近な緑
013 静かな奥	028 地域へのなじみ ⁽¹³⁾	041 さわれる花
014 細い道		042 どこにでも老人
015 緑路・土路 ⁽¹⁵⁾		043 どこでもこども ⁽¹⁵⁾

▼図1 パタンシートの例

パタン no. 015	パタンの名称 緑路・土路
パタンのイラスト	パタンの概要 硬くて暑苦しいアスファルト舗装がほどこされておらず、路面は土があり草が生えている。街路と歩道を区別していない。
	パタンの効果 夏には、路面の空気が涼しくなり快適に歩くことができる。また子供たちが安心して遊べる場所にもなる。車の低速化にもつながり、人が通り草花や虫、小鳥など豊かな道となる。
	関連のあるパタン no. 013 静かな奥、no. 014 細い道、no. 027 大地へのなじみ、no. 028 地域へのなじみ、no. 040 手近な緑、no. 041 さわれる花

▼図2 昭和的空間におけるカスケード(全体像)



▼図3-1 現況写真(町屋駅周辺)



▼図3-2 カスケード

